

# 令和2年度 第2回広尾町総合教育会議議事録

- |   |         |    |                                             |
|---|---------|----|---------------------------------------------|
| 1 | 日       | 時  | 令和2年12月1日（火）<br>午後1時30分～2時10分               |
| 2 | 場       | 所  | コミセン大ホール                                    |
| 3 | 構成員の出欠席 | 出席 | 村瀬町長、菅原教育長<br>中村委員、武藤委員、大森委員、齊藤委員<br><br>欠席 |
| 4 | 出席した職員  |    | 総務課長<br>管理課長、社会教育課長、管理課長補佐、学校給食センター所長       |
| 5 | 開       | 会  |                                             |
| 6 | 議       | 事  |                                             |

管理課長(13:30)

〉 それでは会議に先立ちまして、令和2年10月1日付で齊藤一也教育委員が任命されまして、今回初の会議でございますのでご紹介を兼ねまして一言ご挨拶をいただければと思います。

齊藤委員

〉 こんにちは、10月1日より石山教育委員の後任として選任いただきました齊藤一也でございます。よろしくお願いいたします。保護者代表ということで今現在は広尾小学校のPTA会長を務めさせていただいているんですけど、なにしろ未熟者です。また今後はお話を聞きながら務めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

管理課長

〉 それでは、これより令和2年度第2回広尾町総合教育会議を開催いたします。

〉 はじめに、町長からご挨拶をお願いいたします。

町長

〉 本年度第2回の広尾町総合教育会議であります。お集まりいただき大変ありがとうございます。また教育委員の皆さま方には本町の教育行政を担っていただいているところでありまして併せてそのご尽力に心から感謝を申し上げたいと思います。何といたっても新型コロナウイルス感染が収まらない状況にあります。特に教育行政の中においては、保育園、幼稚園そして小学校、中学校、高校と感染が収まらない状況にあるわけでございます。特に学校関係については、感染したときのマニュアル、行動計画など決められているところでありまして、そういった事態に陥ったときにはですね速やかな対策についてお願いしたいと思っております。また特に感染者が出るとですね、「誰だ」というように犯人捜しをすることがありますので、仮に広尾町から感染者が出た場合にはですね、しっかりとした対策、また感染された方の家族などに対する、また保護者の方に対するケアをですね、しっかりしていければなと思っているところであります。行政、まちづくり全体としても停滞する中でどうやってコロナと向き合って、どうやって対策をして行政を進めればいいのかというところをしっかりとみんなで知恵を出し合っていければいいなと思っているところであります。今後ともどうかよろしくお願い申し上げます。

管理課長

〉 それでは、これ以降、総合教育会議運営指針第4条に基づき、町長の議事進行となっております。よろしくお願いいたします。

町長

〉 それでは今日の協議・調整事項につきましては2点あるわけあります。この後、従来どおり教育長が議長となって進めていきたいと思いますがよろしいでしょうか。（各委員「はい」） それでは教育長よろしくお願いします。

教育長

〉 はい、それでは早速議事のほう進めさせていただきます。3番目の協議・調整事項（1）の「教職員の働き方改革について」事務局より説明をお願いします。

管理課長

〉 それでは議案1頁をご覧ください。こちらのほうですね教育委員会職員によります勤務管理システムにより管理をしております。年度ごとにですね取り組みの進捗状況を検証しまして必要に応じて取り組みの見直しを行うものであります。現在、各学校においては週1回の定時退勤日の設定、部活動では週2日の休みの設定、指導要録のシステム化、校務支援システムの導入、ワンノートの導入による会議のペーパーレス化など様々な取り組みを行っております。今後も北海道の制度でありますスクールサポートスタッフや学習指導員の導入などできるものの取り組みを順次進めていきたいと思っております。以上であります。

教育長

〉 はい、今説明がございましたがご質問等がありましたら発言をお願いします。

大森委員

〉 今ご紹介をいただいたスクールサポートスタッフと補助員の違いと言いますか、どういうことをしていただけるのか教えてください。

管理課長

〉 スクールサポートスタッフにつきましては授業以外のこと、例えば雑務、そういった部分にですね人を充てるというものでございます。学習指導員につきましてはですねテストの採点だとか成績表の整理であるとかそういった学習の部分をですね担っていただくものでございます。こちら北海道のほうの経費でですね時間単位で働ける方、例えば今豊似ですでに実施しているんですけども、午前中だけとかそういった働き方、柔軟な対応をしております。

教育長

〉 補助員は。

管理課長

〉教員補助員ですね。こちらのほうですね小学校で6名、中学校で2名、中学校はこのほかに教科指導助手を2名おいております。こちらのほうはですね最近あの特別支援のほうですね、やはりですね授業中に支援が必要な子、それぞれ各学年いますのでこういった部分での教師のサポートとして、こちらの教員補助員につきましては教員免許を持っているのということが資格要件であります。1日7時間勤務になっております。

教育長

〉よろしいでしょうか。大森委員よろしいでしょうか。

大森委員

〉ごめんなさい。今お話し下さったのが1つはスクールサポートスタッフ、2番目が。

管理課長

〉学習指導員です。

大森委員

〉学習指導員。そして教員補助員。教員補助員の方が実際の授業中にクラスの中に入ってということですね。はいわかりました。

教育長

〉ほかにございませんか。よろしいでしょうか。（各委員「はい」）この件については終わらせていただきます。

〉続きまして（2）「広尾町教育委員会の懸案事項について」事務局から説明をお願いします。

管理課長

〉それでは2頁をご覧くださいと思います。教育委員会の懸案事項についてでございます。それぞれ各担当する者から説明をさせていただきます。1つ目の広尾高等学校の存続についてでございます。現在、生徒数確保のため様々な対策をとっております。今後の課題といたしましては、コミュニティ・スクール、中高一貫教育制度を含め町としての方向性を検討していかなければなりません。現在は2間口確保のための様々な方策、今年度は広尾高校サポート11という形で今年度はスクールバスも走らせておりますので、模試・資格検定補助、下宿・交通費の助成、ほか部活動補助等々、様々な支援に力を入れてですね今年度においては46名、2間口を確保しているということでございます。今後でもできるところ、様々な取り組み展開していきたいと考えております。2番目、中学生海外派遣の縮小充実につい

てでございます。こちらのほうなんですけど、生徒数の減少によるですね、家庭の費用の軽減と派遣人数を12名から8名に減らした経緯がございます。負担額のほうも1つの家庭7万5千円から5万円に減額しております。ただですね現状では皆さんご承知かと思うんですけどアメリカ西海岸の安全性の問題、それと父母の経費のほうと、1週間という短い期間での英会話の上達に繋がっていないのではないかという研修効果、そういった部分もですね見直しを図りましてですね、先日行われました中高生等海外研修派遣推進協議会で承認をされました。イー・エフという研修専門機関、そういった会社の事業においてですね安全性の確保も含めて研修先をシンガポールに変更したいということでした承をいただいております。私からは以上であります。

#### 管理課長補佐

〉3頁をお願いします。3頁の3番、教員住宅・閉校施設等の解体についてであります。すでに閉校した学校、使用していない教員住宅について老朽化により解体が必要になっております。今年度の補正予算で教員住宅4棟6戸の解体が行われております。今後の課題としては老朽化により危険が生じる恐れがある建物がまだありますので町全体の予算もありますが計画的に解体できればと考えております。次に4番目のスクールバスの運行についてであります。現在町内6路線で運行しており今年度より広尾高校生の乗車も始まり運行管理業務が複雑、膨大になっております。課題としては運転手の高齢化、代替運転手を含め8名の運転手のうち7名が60歳代となっており、年齢制限があるため運転手の確保が大きな問題となっております。私からは以上です。

#### 社会教育課長

〉次に4頁に入ります。5番の音調津総合センターの駐車場整備工事、6番の音調津総合センター物置増設工事につきましては地域からの要望事項であります。ただ緊急性が無いということからこの2つの事業につきましては経過観察としたところです。次に7番、生涯学習センターの建設です。これにつきましては来年度からの新しいまちづくり計画の中で生涯学習センターの建設という項目は無くなっておりまして、予定どおり掲載しないこととしております。8番目シーサイドパークゴルフ場のクラブハウスなんですけれども、枝葉から水がしったり落ちて屋根が傷むということでありましたが、こちらは直営で支障木を撤去しておりますので、この後経過観察をしたいと思います。次に5頁をお願いします。9番、野外活動施設キャンプ場の改修工事ですけど改修費用に数千万円かかるということもありまして、まちづくり計画の中でもですねキャンプ場の再整備を検討するという内容等もありました。シーサイドパーク地区のあの地区にキャンプ場があるのいいのかどうかも含めてですね来年度以降で検討いただきまして、観光客の誘致、そういったことに力を入れるのかどうなのかの検討に入ります。現在、野外活動施設につきましては条例の中で野外活動を通じて青少年の健全育成を図るということになっておりますので、もう目的としては終わったんじ

やないかというような社会教育課の意見であります。次に10番、町民プールのボイラー更新及び配管改修工事についてです。こちらについては、スポーツくじを財源といたしまして、水槽をいじればスポーツ振興くじの対象になりますのでまちづくり計画にも登載させていただきました。ただ制度としては3分の2の助成ですから3分の1は事業費の持ち出しがあります。次に11番、丸山球場の整備であります。6次計画に掲載予定で計画しましたけれど、計画には登載されないままとなっております。こちらグラウンドをいじるということになれば付帯工事として暗渠工事であったりフェンスであったりバックネット等も工事の対象となります。こちらについても実際やる際にはスポーツくじ、t o t oくじ助成を財源にして実施できればと思っております。こちらについても3千万円を超えて1億円までの事業費であれば3分の2の助成を受けることができます。次に12番、町営スキー場リフトの更新です。機器が古くなっておりまして機器の更新に1千万円かかることから懸案事項としてあげました。リフトのワイヤー、ケーブル会社からですねこちらのほうに点検に来ることが難しいということで、安全性の確保が出来ないことから昨年度からリフトの運行を停止しましてゲレンデだけ整備する形で開設をしております。今年度につきましてもそういう形ですすめようと思っております。13番、図書館電算化システム導入につきましては国からのコロナの交付金によりましてシステム化がはじまっております。これによりましてインターネットを介して予約システム等が構築できますので、人と人との接触を避けることに繋がる。ということからコロナの感染対策になるかと思えます。14番、移動図書館バスの更新ですけれども今年度発注済みです。宝くじのコミュニティ助成で1千万円の助成が当たりましたのでこちらを財源に更新を図りたいとするものです。15番、専門職等の長期雇用につきましては会計年度任用職員ということであります。臨時職員ではなくて、そういう形の採用になりました5年間という枠が撤廃されましたので解決済みとなったものです。それから16番、平日の臨時職員の雇用についてですけど、図書館の職員の働き方改革を今年度からはじめております。昨年度までは週に2日の休みというのは現場として与えていたんですけども、あくまでも2日間ということで、連続した2日間の休みでは無かったものですから、それを改正させていただきまして、結果として新たに会計年度任用職員を働く時間、日数、そういったものを来年度の予算要求から反映させたいと思えます。17番、児童福祉会館の駐車場の整地、18番、大ホール舞台の幕の更新、それから19番、児童福祉会館の放送機器の更新につきましては、新しいまちづくり計画の中でホールの照明であるとか機器の補修だとか10年以内を目途に更新することとして計画に載せていますので随時実施したいと思えます。最後に7頁になります。20番目、旧広尾小学校の利活用についてです。こちらについては、現在主に陶芸教室、サークル活動としてやっているわけですけど、今のところこの拠点をですね旧広尾保育所に移しまして整備をしたいと思っております。社会教育施設の整備のいろいろあって財源の手当てを考えていかなければならないことが課題になります。生涯学習センター建設の構想がなくなったものですから、今現在建設のために積んである基金をですね生涯学習拠点の整備ということで使っていけないものかと、基金の使途を変更すること

を検討しております。以上で終わります。

教育長

〉私から補足をしたいと思います。懸案事項の２頁、まず中学生の海外派遣の関係であります。それと１番目の広尾高校の存続に関してですね、今月４日から町議会定例会が開会されます。その中で２件ほど教育行政報告をさせていただきたいと考えております。まず１点目ですけど、中高生の海外派遣の関係です。先に協議会を開催して派遣する国の変更を決めております。今現在アメリカに送り出しているわけですけどアメリカの今の現状をいいますと１３００万人のコロナの感染、これがじゃあ来年収まるかという保証もございませんし、まあシンガポールも感染者は６万弱出ていますけど、世界で死亡率が低いということ国の治安問題等々ありましてですね、派遣場所を変更したいということであります。行先はシンガポールに変更しました。シンガポール以外にですねオーストラリアですとかニュージーランドですとか検討させていただきました。ハワイも含めてですけど、その中で治安の問題が一番大きいかなと思います。それから２点目、高校の存続の関係です。これについてはですね、去年議会の一般質問でもありましたけれども、高校生の制服の助成をしたらどうかというんですよね、一般質問いただきました。それで町長に相談させていただいて次年度から広尾高校への進学者に対してですね、まあ大体初年度１０万円程度かかるそうなんです。制服、教科書、ジャージ、靴、その２分の１程度の５万円をですね進学者に対して助成をしたいということで定例会で行政報告をさせていただきたいというふうに思っています。私からは以上です。

〉それではこの懸案事項についてご質問等がありましたらお願いいたします。

武藤委員

〉よろしいですか。

教育長

〉はい。

武藤委員

〉中高生の海外派遣なんですけど南十勝４町村の共同研修は実現しなかったということですが、将来的には共同というか４町村で募集してというようなことを考えているのでしょうか。

教育長

〉あのですね、きっかけがですね、今現在中札内がハワイ、更別はやっていないんですね、大樹は台湾、で広尾町はアメリカということになっていまして、更別がですねどうしてもやりたいんだということですが、何かから手を付けていいか全くわからないという中で、南十勝

の教育長が会った中でじゃあ広域的に取り組めるか1回話し合ってみましょうかということ  
で話をさせていただきました。いろいろ意見を持ちあって相談をさせていただいたんですけ  
ども、中札内についてははじめたばかりで現地に教育長が直接行ってプレゼンをしたとい  
うことでございまして、どうしてもここは変更をできないと、大樹についてもこれは姉妹都市  
ということなのでここは変えたくないということでですね、更別はとにかく送り出したいんだ  
ということで、広尾町もですねその時に今アメリカに行かせているんだけどどうしても治安  
の部分とかで不安に思ってるんだということでシンガポールでどうかなと私が意見を出した  
んです、そしたら更別の教育長が飛びついて来ましてですね業者のところに話を聞いて今年  
予算要求したみたいなんですね、まあそんなことからですね広域的に取り組むとしたら2町  
村で取り組めるかなと経費についてもですね、引率の関係も1町村で負担している、これが  
一人一人まかなえるのかなと、行く時期によるんですけれどもそういうことが考えられるの  
かなと思っています。

〉ほかにございませんか。

〉町長から何かありませんか。

町長

〉あの、広尾高校これをみると2間口を維持しています。中学生の人数も出ていますけど、  
厳しい年もあるんだけど頑張って2クラスを維持してきています。議会でもまた町民の中  
からの声もあってですねいろんな支援をしたらどうかという話があって、何と言っても子ど  
もたちが広尾高校を選ぶ施策をやっぱり重点的にしたいということでやってきました。いろ  
んな支援をやって、いろんな資格を取ったり、ゼミに行ったり、まあそういったことで子ど  
もたちが広尾高校へ行って次に上を目指す学校を選んでもらう施策でずっとやってきました。  
でもですね、ほかの町村が親の経済対策もあわせてやってきているんですね、広尾はそれは  
後にしてまずは学校をしっかりと、広尾高校を子どもたちが選ぶ学校にしてほしいという施策  
をやってきたんですけれどもここに至ってはやっぱり親の経済対策もやっぱり必要かなと、財  
政状況厳しいんですけれども広尾高校を守ることこれ地方創生のやっぱり大きな柱であります  
から、厳しいですけれどもここもやっぱり含めて対策をしていかなければだめかなというふ  
うに思っています。スクールバス、豊似の子どもたちが乗れるようになりました。教育長に  
聞くとそのことによって1人、2人、広尾高校に来たということでありますから、やっぱり  
そういった対策も必要かと思ったところであります。何も中学生、アメリカからシンガポー  
ルに移って後退した訳ではなく、ちゃんとしたところに行くということでありますから、そ  
ういう施策を選んだわけでありまして、よろしく願いしたいなというふうに思います。

教育長

〉特にシンガポールにつきましては英語学習環境、イー・エフっていう団体がですね学校で  
はないんですけどそういう施設を持っているんです。そこに全世界から子どもたちが集まっ

てくる。子どもたちは実際にはホームステイをしますのでホームステイ先から毎日そこに通って語学学習をするという、そういった環境になっています。アメリカですと美術館に見学に行ったり地元の小学校を訪問したりということで実際に生の英語というのはホームステイ先のホストファミリーと会話するだとか現地の子どもたちとしゃべるというようなことがありました。そういった中からやっぱり英語学習に結び付けたいなという思いがあってですね、そういう施設で語学学習をさせた方がいいのかなと思ってですねシンガポールとさせていただいたところであります。委員からはですねアメリカとシンガポールならスケールが違いすぎるという話があったんですけど、同じ英語圏というところと何回も言いますが治安の良さそれとコロナ対策というのがあるものですからシンガポールに変更させていただいたということです。

〉ほかにございませんでしょうか。

#### 大森委員

〉海外研修の件なんですけど中学生にとって、こういう海外研修をするということが語学の向上に繋がるかということが出ていますが、正直に言って中学生の時に語学力の向上というのが、短期間でですよ、そこで行って経験するから向上するかという問題は効果的にはどうかなというところあるんじゃないかなと思うんですよね。どちらかというと違う文化に直接現場に行って少し触れる、その刺激を受けるという方が中学生にとっては大きいのかなと思いますね。もし英語の学力向上ということを考えるのであれば今本当にネットの世界でちっちゃい幼稚園に入る前の子なんかが結構やってるみたいですけど、もうネットでどんどんとスピーカーにしてあるいは英語圏、通常英語で生活している人たちとやりとりをするというのが簡単、本当に短い時間を毎日経験するとか、あとディズニーのなんか英語バージョンを遊びがてら見せてどんどん流すとかお休み時間でも何でもいいので学校の教室の中でBGMのようにとにかく英語をだーっと流す、そうすると特にレッスンを受けていないのにやはり耳が良くなるとそういう教育方法もあるそうなんですよね。だからそういうのだったら学校のお休み時間に英語を何でもいいので流すとか教育方法を少し勉強すれば委員会としてもそういうことを勉強したらいいかと思うんですけど、そういう方法のほうが着実に身につけていく、着実かどうかわかんないですけどそういう方法もあると、研修をして語学力の向上を可能な限りね、何日間だけ行って向上を期待するというのはちょっとどうかなというふうに思います。

#### 中村委員

〉これは語学力の向上だけじゃないでしょ。向こうの家庭だとかそういう生活環境を勉強するんでしょ。英語だけじゃないでしょ。どちらかというとそちらのほうが大事でしょ。

武藤委員

〉シンガポールってすごい教育の環境が進んでいると、5、6年前に聞いたときで教科書じゃなくてタブレットを小学生が使っているって、そういった進んでいるところ体験することもいいと思います。その施設というのはいろんな国から来て余計そのいろんな国のことが知ればまたいいし。

町長

〉そうですね。

教育長

〉協議会を開催した中でですね、シンガポールをまずやらせてくれとそこでまた行き先がということになればですね、その時にまたお話をさせていただきたいということでシンガポールをこのままずっと続けるとは考えておりませんと、まあ当然行った子どもたちの話も聞きたいし、まあ更別が今年行ってくれば良かったんだけどまだコロナの関係で行けない状態ですから来年になっちゃうのかなと思うんですけど、そういう中で広域での取り組み、そして子どもたちも他の町村の子どもたちとふれあう、そして世界中の子どもたちとふれあう、そういう中でいろんなつながりを見つけてきてほしいなというのがあります。

町長

〉大森さんが言った、日常的に流すとかね毎日は無理にしても週1回とかね、休み時間になったら英語が流れるとかねそれも工夫の1つですよ。

大森委員

〉中学生が語学力が向上するのか効果的なのかどうかという部分、いったん中止も検討というところで載っていますが、やっぱり語学力向上の意味がないんじゃないか、だから向こうのほうにという問題では無くて中村さんがおっしゃったようにね。

教育長

〉現状を申しますとホームステイ先でも言葉に苦労してですね過去に孤立する子どもが何人もいたということを聞いております。ですから短期間に海外に行ったからといって語学力が付くとは私の立場ではちょっと言えないんで、いろんな体験をさせてあげたいと思っています。

〉ほかにございますでしょうか。よろしいでしょうか。（各委員「はい」）

〉それでは「その他」に入りたいと思いますけど、何か事務局からありますか。

大森委員

〉 ちょっとその前に聞いていただきたいことがあるんですけど、生涯学習センター建設用基金は大体おいくらあるんでしょうか。

社会教育課長

〉 生涯学習建設基金は1億円積んでおります。それ以外に建設のための指定寄付、一般からの指定寄付というのが約370万、総額で1億370万です。

大森委員

〉 それも考えて崩していかないと大変ですね。

社会教育課長

〉 財源がないものですから、生涯学習センターの建設じゃないですけど生涯学習拠点の整備で使いたいということであれば指定寄付された方もですねご納得いただけるのではないかと思っております。

教育長

〉 まあ当時、村山教育長の時代ですね文化ホールをつくると、建設のために当時1億円を基金として積んだと、教育振興基金です。それで今課長が言ったように寄附もいただきました。目的を持ったお金ですから、勝手に使うわけにはいきませんから今後町部局と協議しながら、まあ町長が決めることですから、まあこれを違う基金に積んでまちづくり基金ですとか積み直して使っていくということもできますし、まあ現状のままでは建設するためのお金ですから一旦振り替えた方が使いやすいのかなと思っております。

大森委員

〉 もう一ついいですか。スキー場の件なんですけど、結局ヒアリングの結果でリフトは動かさない、だけど大会には使用するって書いてありますけど、これはリフトを使わなくても大丈夫なんですかね。

教育長

〉 人力では登れますけど。そんな長いコースではないので。

町長

〉 大会するの。できるの。できるのっていうかそういうレベル。

社会教育課長

〉スキー協会さんと話しまして、大会等もやっていますし初心者向けのですねスキー教室も毎年やっているののでゲレンデの整備くらいはしてほしいんだって話があったもんですから、その部分とですねそこに来た人たちがそこで用意するものですからロッジの開放という部分もしてほしいと、リフトのほうはケーブル会社が点検保守に来れないという話になっちゃってますから、高齢化と人員不足で人手が回らないということで、そういうことから安全そのものが確保できないものですからそういった点からリフトの運行につきましては中止させていただいています。

町長

〉途中まで人力で登って行ってそこから滑るんだけど大会になるの。

社会教育課長

〉なっているので。

町長

〉なるの。わかりました。

武藤委員

〉スノーモービルを使って運ぶとかは考えていないんですか。

町長

〉危ないんじゃない。後ろに乗せてか。

武藤委員

〉スキーを乗せて上まで乗せていくとか。

社会教育課長

〉スノーモービルでコースは均してるんですけど。

町長

〉スキー協会とよく話し合ってください。忠類に行きたいってなればバスでも出してあげればいいし。

教育長

〉それではその他ですけど事務局から何かありますか。

管理課長

〉 ないです。

教育長

〉 総務課長は何かある。

総務課長

〉 ないです。

教育長

〉 それでは協議・調整事項につきましてはこれで終わらせていただきます。全体をとおして何かありますでしょうか。（各委員「ないです」） それでは町長にお返しします。

町長

〉 それでは協議・調整事項終わりました。締めてよろしいでしょうか。（各委員「はい」）

〉 それでは短時間ではありましたが第2回広尾町総合教育会議これで終了させていただきます。年末そして新年度に入るわけでありますけど、何と言ってもコロナ、どうやって克服していくかということでございます。清水町が行政の中では大変な状況になっている中でございまして今日の道新を見ると首長が1人北海道ではじめて出たようでございますから、私も行動は慎重にしなければだめかなと思ひまして、よく言われるのはいつでも、だれでも、どこでもって可能性があるわけでございますからしっかりとした対策すすめて行ければと思います。みなさんありがとうございました。（14:10）

この議事録は、令和2年12月1日に開催の広尾町総合教育会議の確定に基づいて作成した。  
（当日の議案は別紙のとおり）

広尾町長 村 瀬 優

教 育 長 菅 原 康 博

（令和2年12月10日調製）

広尾町教育委員会管理課